



はじめに ・ 英語授業学研究

表1 高等教育における「英語授業学」関連研究の経緯

| 年 | 著作等 |
|-------|--|
| 1983年 | 若林(1983:186-187) |
| 1984年 | 若林他共編(1984) |
| 1990年 | 若林俊輔教授還暦記念論文集編集委員会編(1990) |
| 1991年 | 松畑(1991) |
| 2001年 | 『「英語教育の推進について」の検討素案』(2001) |
| 2004年 | 「田辺メモ: 大学英語教育の在り方を考える」(報告) 大学英語教育学会授業学研究委員会発足 |
| 2007年 | 大学英語教育学会授業学研究委員会編著(2007) |
| 2010年 | 大学英語教育学会第二次授業学研究委員会発足 山岸他編著(2010) |



→ 明確な定義がない

英語授業学研究の定義

名人芸の一般化
松畑(1991)



- よい英語授業とはどういうものなのか？

よい英語授業(1) 「すぐれた授業」で検索(Google Scholar使用)。

| | 論文数 | 内訳 | 先行研究 |
|----|-----|------------------|---|
| 小 | 7 | 一般1、障害児2、算数1、体育1 | 原田・牛田(訳)(2006);玉村(1996);山根・中川(2005);吉田(2008);馬場・榎本(2004);厚東他(2007) |
| 中 | 1 | | 秋田(1992) |
| 小中 | 2 | | 石川(1998);桑原(2009) |
| 高 | 0 | | |
| 大学 | 12 | 家庭科1 保育1 | 秋田(1992);松原(1995);斎藤・秋田(1995);杉本(1997);八尾坂(1997);菊池(2002);松原(2004);中島・中井(2005);中井・中島(2005);廣渡他(2005);佐野(2005);中井他(2006);早川・岩城(2007);村上他(2007) |
| 他 | 1 | | 斎藤・秋田(1995) |

合計 23 ヒット論文数(138本)に占める割合: 17%

よい英語授業(2)

- 授業者からみる「よい英語授業」
 - 英語教育関連書籍
 - 大学英語教育学会授業学研究委員会編著 (2007)「70字で表す＜理想とする＞」授業
 - キーワード抽出と分類
 - 教材選択や内容に関する視点
 - 森住(1992)他

よい英語授業(3)

- 学習者からみる「よい英語授業」
 - 埼玉県内の私立大学生1年生を対象とした記述アンケート (文章完成法)
 - キーワード抽出と分類 ()な英語の授業はよい授業だ。
()ができる英語の授業はよい授業だ
()がある英語の授業はよい授業だ。

授業者の態度や振る舞いに関するものが多数

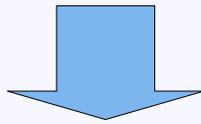


授業者の特質や適性 調査に関する質問項目を参照(縫部,2005)

「よりよい英語授業」の要因

よい英語授業(1), (2), (3)

6件法



質問紙の作成

資料1

8

目的

学習者からみる「よい英語授業」
の要因を分析・考察すること

方法

- 対象者
 - 関東近県の中学生・高校生・大学生1459名
- 実施期間
 - 2012年1月から3月
- 方法
 - 質問紙調査 → 探索的因子分析
 - 確証的因子分析

結果と考察

- 天井効果がみられた質問項目



- 3因子構造

→ 多数の下位項目(命名不能)

| 因子 | 下位項目数 |
|------|-------|
| 第1因子 | 22項目 |
| 第2因子 | 20項目 |
| 第3因子 | 12項目 |

| 因子 | 1 | 2 | 3 | α |
|----|------|------|-------|----------|
| 1 | | 0.72 | 0.766 | .97 |
| 2 | 0.72 | | 0.676 | .95 |
| 3 | | | | .92 |

説明された分散の合計 57.7%

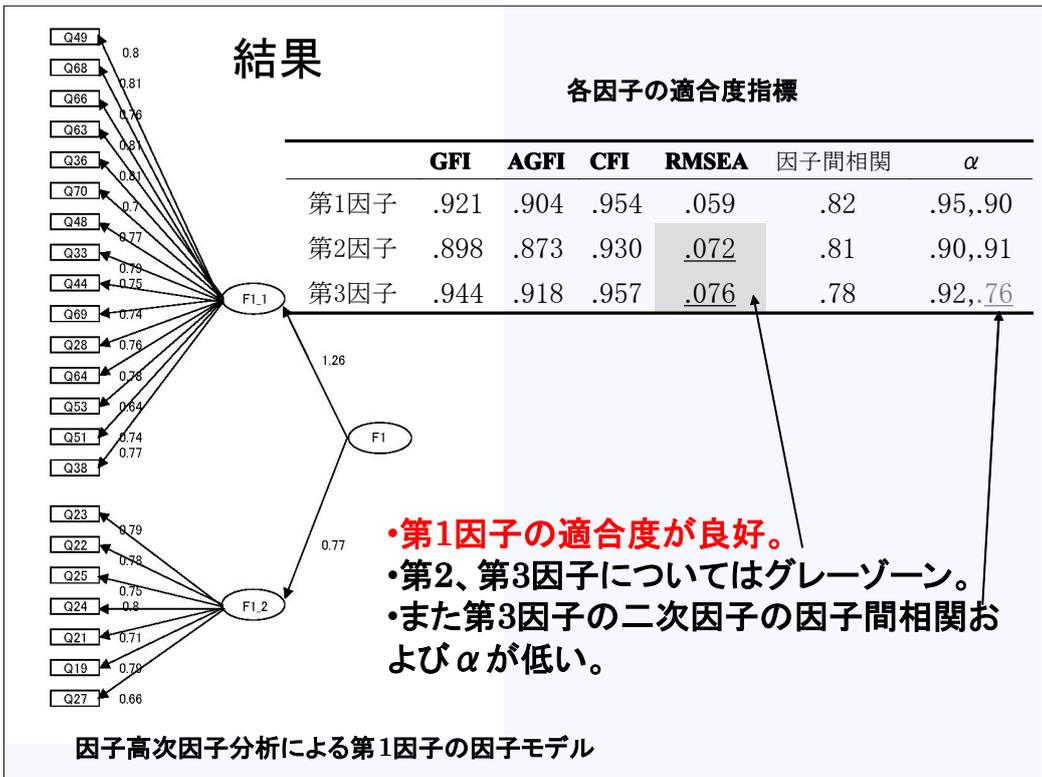
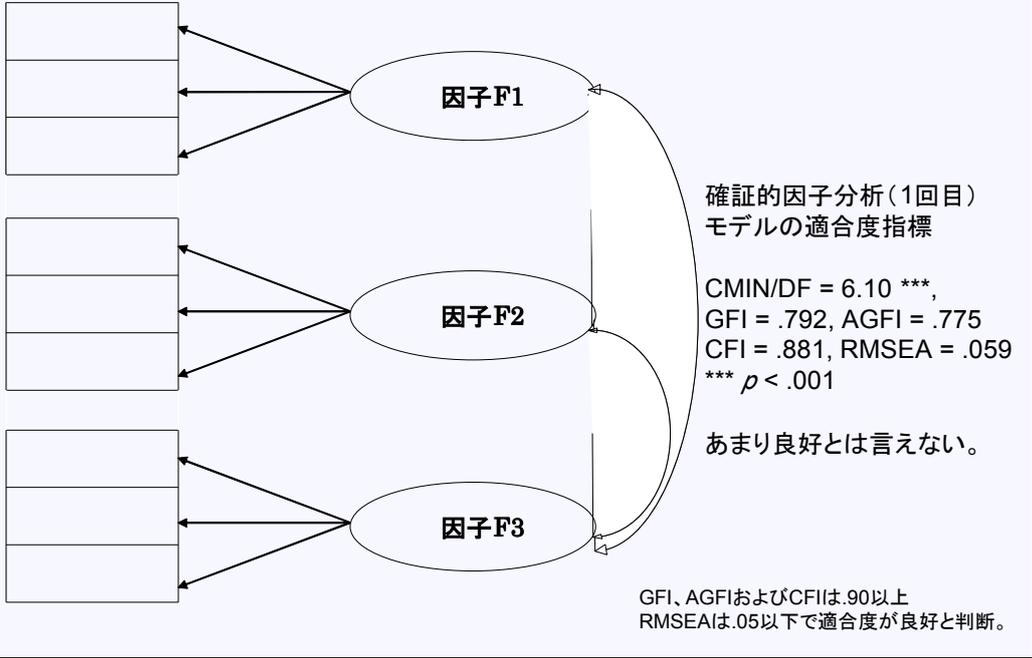
→ 高次因子分析の採用

各因子内でさらに因子分析

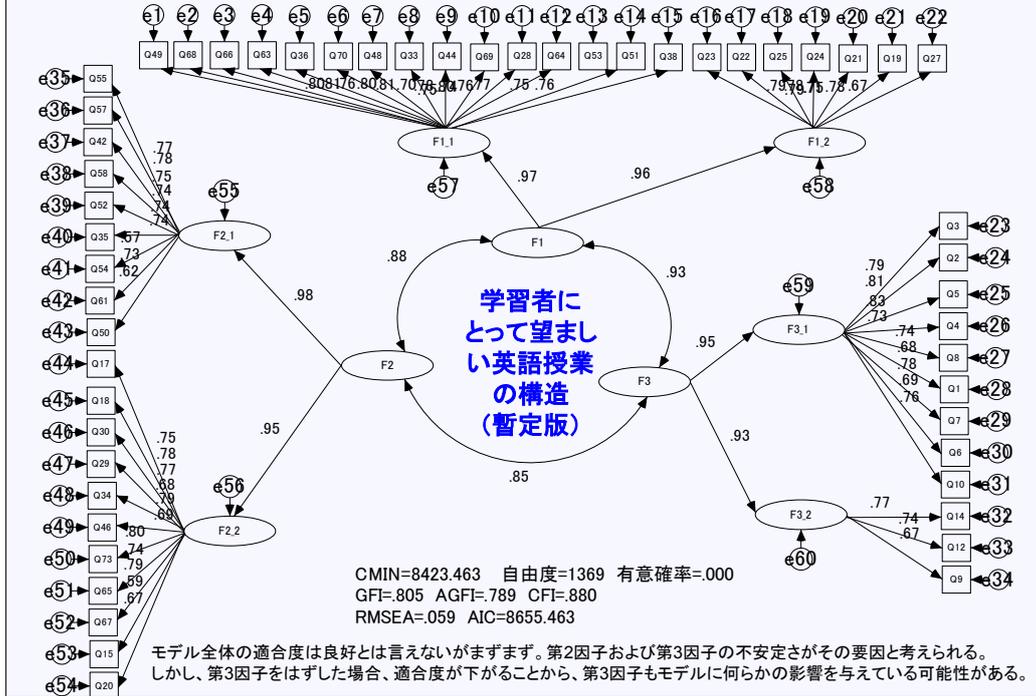
望ましい英語授業の前提

- 11 テストの点数が上がる
- 13 海外に行った時役立つ英語表現を練習できる
- 16 自分に合った勉強方法が選べる
- 31 先生が授業中以外の努力を認めてくれる
- 32 英語を「聞く・話す・読む・書く」活動が一通り入っている
- 37 英語の文章が書けるようになる
- 39 英語を聞いて内容を理解できるようになる
- 40 わかるまでねばり強く教えてもらえる
- 43 将来役立つような内容を教えてもらえる
- 45 明るい雰囲気が進む
- 56 文法のルールを説明してくれる
- 60 わかりやすく先生が英語を発音してくれる
- 62 集中する時間とみんなで楽しく取り組む時間があるなど、メリハリのある
- 71 先生が暖かく、やさしく、思いやりがある
- 72 覚えたいような例文を用意してくれる

一般的な因子分析のモデル例



高次因子分析による3因子全体のモデルと適合度



第1因子の下位項目

F1_1

- 49 先生がしっかり準備をして授業をしてくれる
- 68 英語の文法や単語についてくわしい知識を持っている先生が担当する
- 66 授業以外でも英語を勉強したくなる
- 63 生徒の英語の力に応じて授業を進めてくれる
- 36 先生が生徒の反応に気付いてくれる
- 70 プリントを使って勉強できる
- 48 自分の成長が自分でわかる
- 33 先生と気軽に交流できる
- 44 なぜ英語は2つ以上の名詞に-Sを付けることがあるのかなど、文法の背景がわかる
- 69 1年間を通じて、どの時期にどのような勉強をするのか説明してくれる
- 28 先生が質問に喜んで答えてくれる
- 64 自分ひとりでも勉強できるようになる方法を教えてもらえる
- 53 その日に勉強する内容を最初に説明してくれる
- 51 受験や就職以外で、英語を勉強することがどのように社会に役立つのかを考えることができる
- 38 予習の仕方を教えてもらえる

| 1 | 2 |
|-------|-----------|
| 0.813 | -4.94E-03 |
| 0.8 | 1.84E-02 |
| 0.75 | 1.65E-02 |
| 0.708 | 0.123 |
| 0.694 | 0.136 |
| 0.689 | 1.95E-02 |
| 0.669 | 0.123 |
| 0.639 | 0.173 |
| 0.632 | 0.137 |
| 0.6 | 0.167 |
| 0.578 | 0.21 |
| 0.545 | 0.269 |
| 0.516 | 0.204 |
| 0.491 | 0.283 |
| 0.443 | 0.37 |

F1_2

- 23 授業で取り組む活動にどのような意味があるのか説明してくれる
- 22 英語を勉強することが、就職や受験でどのように役立つのかを考えることができる
- 25 自分が普段使っていることば(母語)と英語の違いや共通点を説明してくれる
- 24 自分に合った目標が選べる
- 21 辞書の使い方など勉強方法を教えてもらえる
- 19 復習の仕方を教えてもらえる
- 27 生徒の提案や考えを取り上げてくれる

| | |
|-----------|-------|
| -3.03E-02 | 0.835 |
| -1.01E-02 | 0.815 |
| 0.122 | 0.642 |
| 0.215 | 0.601 |
| 0.126 | 0.599 |
| 0.273 | 0.545 |
| 0.308 | 0.381 |

因子間相関 .82 説明された分散の合計 62.3%

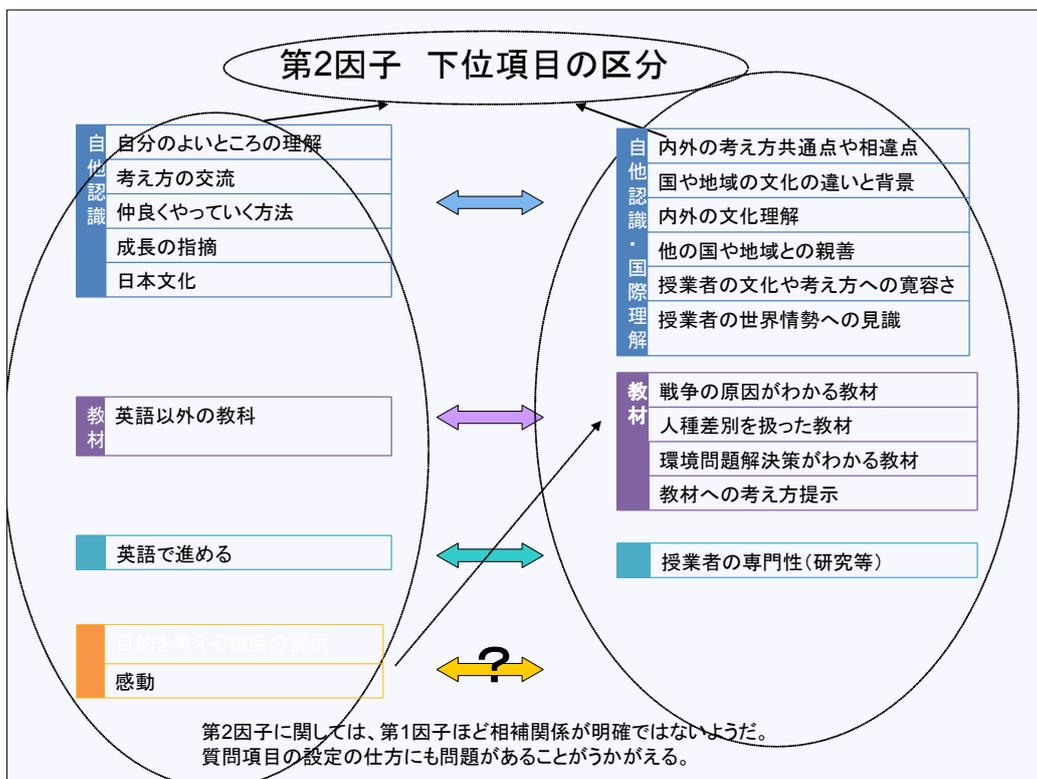
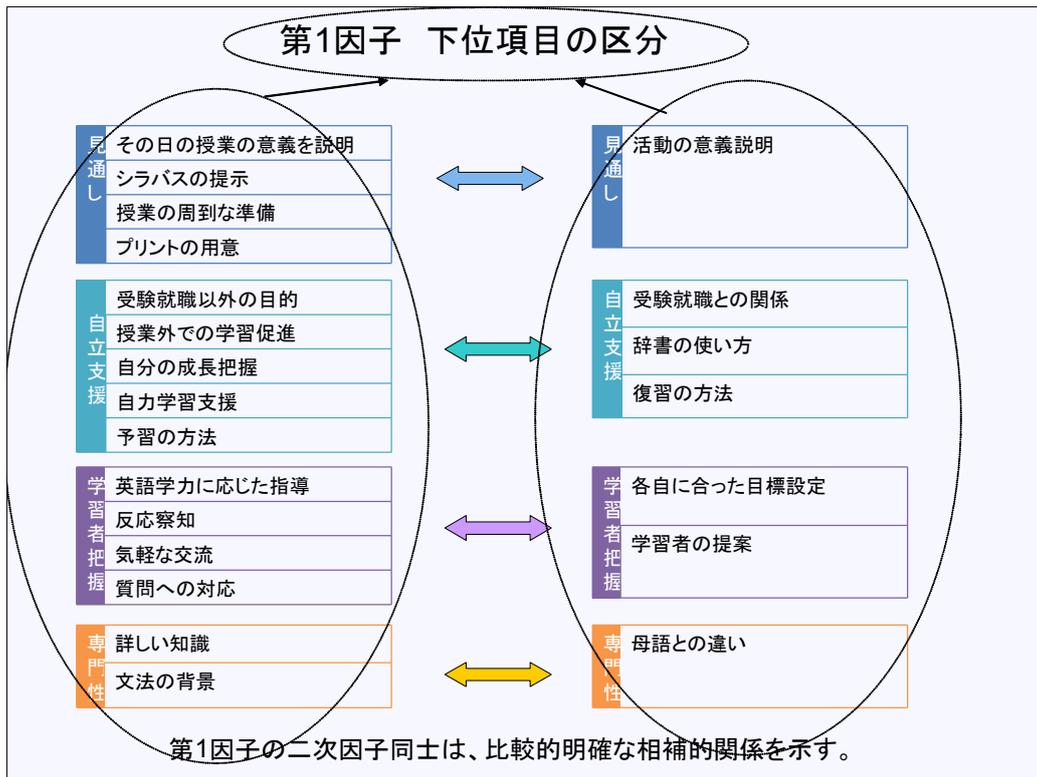
第2因子の下位項目 因子間相関 .81 説明された分散の合計52.1%

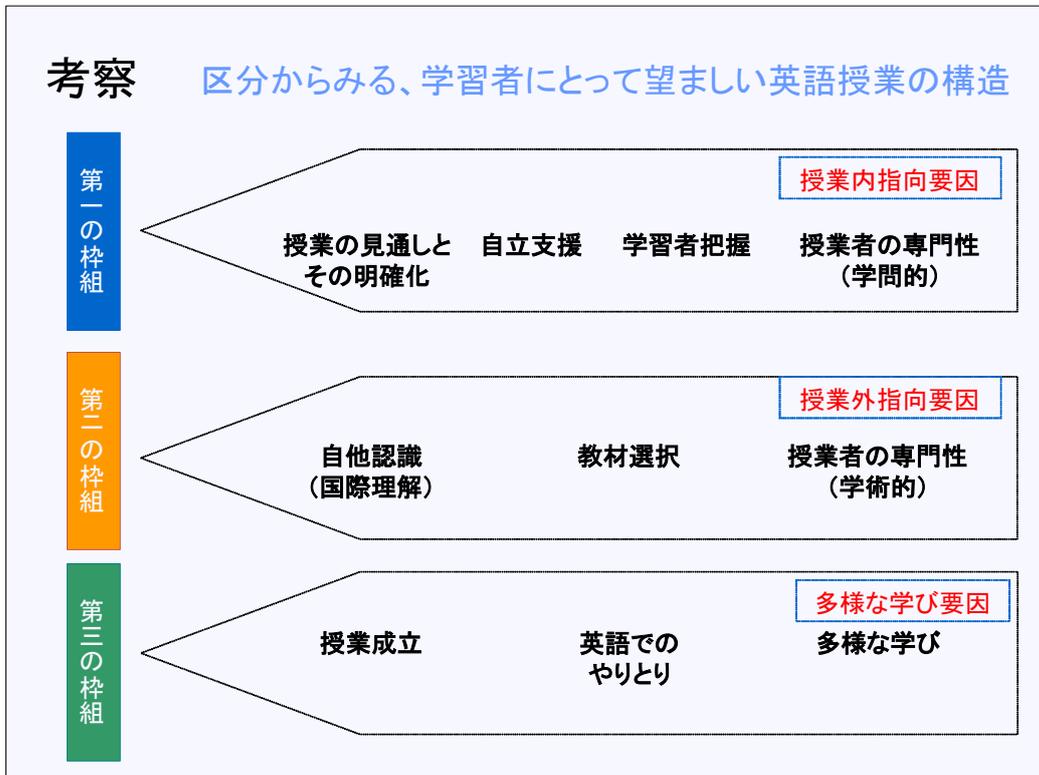
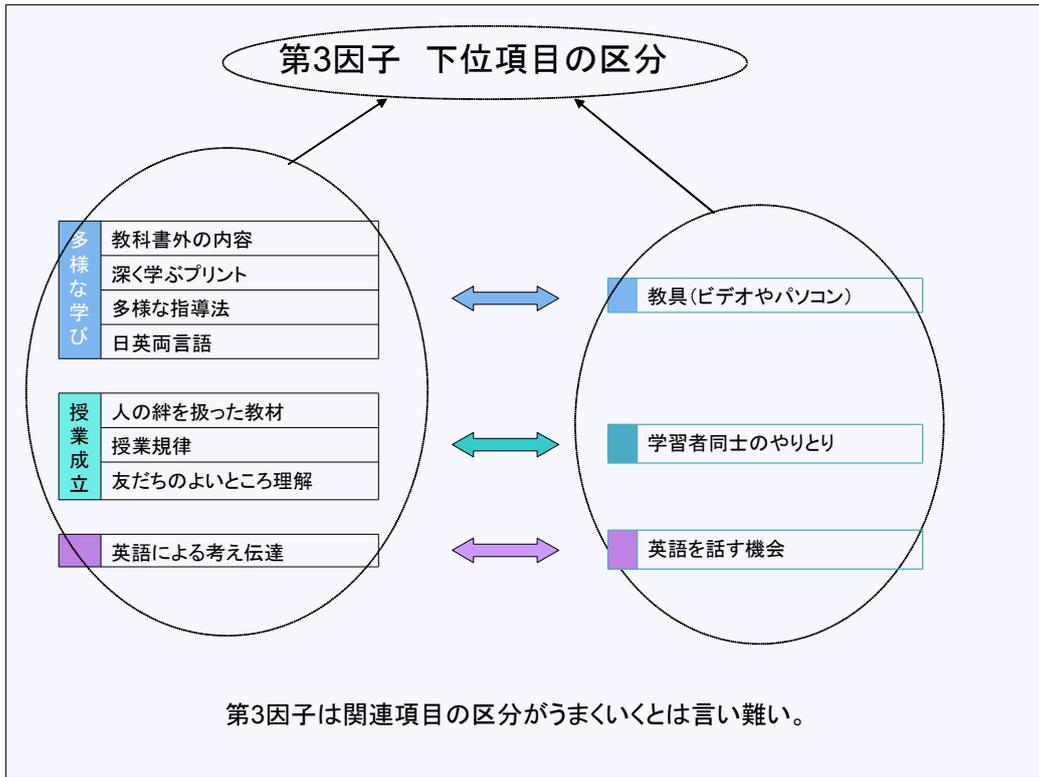
| | 1 | 2 |
|---|-----------|----------|
| F2.1 | | |
| 55 英語の勉強を通じて、自分にはどんなよいところがあるのか気づかせてくれる | 0.909 | -0.139 |
| 57 英語で友だちと考え方を伝え合える | 0.731 | 6.21E-02 |
| 42 英語の勉強を通じて身の回りの友人や人々と仲良くやっていける方法を考えることのできる | 0.664 | 9.06E-02 |
| 58 感動のある | 0.622 | 0.129 |
| 52 なぜ英語を勉強するのかを考える機会を与えてくれる | 0.589 | 0.168 |
| 35 自分がどのように成長したのかを友だちから伝えてもらえる | 0.578 | 0.188 |
| 54 先生が授業のほとんどを英語で進めてくれる | 0.555 | 3.78E-02 |
| 61 日本文化を説明した内容を英語の教科書(テキスト)で学ぶ | 0.447 | 0.329 |
| 50 必要があれば英語以外の教科の内容を取り上げる | 0.436 | 0.201 |
| F2.2 | | |
| 17 国内外のさまざまな地域の文化に関わる内容を英語の教科書(テキスト)で学ぶ | -0.129 | 0.89 |
| 18 英語の勉強を通じて他の国や地域の人たちと日本が仲良くやっていける方法を考えることのできる | -2.50E-03 | 0.803 |
| 30 なぜ国や地域によって文化が違うのか学べる | 4.55E-03 | 0.789 |
| 29 環境問題を解決するには何をすればよいかを英語の教科書(テキスト)で学ぶ | 0.17 | 0.546 |
| 34 先生がさまざまな考え方や文化に対して理解を示すことができる | 0.292 | 0.518 |
| 46 世界で起きている戦争の原因などを英語の教科書(テキスト)で学ぶ | 0.237 | 0.489 |
| 73 さまざまな国や地域の人々の考え方と、自分たちの考え方の共通点や違いを考えることのできる | 0.364 | 0.473 |
| 65 人種差別など世界で起きている社会問題について英語の教科書(テキスト)で学ぶ | 0.33 | 0.454 |
| 67 世界で起きていることがらについていろいろ知っている先生が担当してくれる | 0.386 | 0.438 |
| 15 論文を書くなどの研究をしている先生が担当する | 0.196 | 0.416 |
| 20 先生が教材に対する自分の考えを示し、それをもとに議論できる | 0.341 | 0.368 |

第3因子の下位項目

| | 1 | 2 |
|--|-------|-----------|
| F3.1 | | |
| 3 必要なら教科書に出ていないことも教えてくれる | 0.877 | -7.44E-02 |
| 2 英単語や英文の発音がしっかりできるようになる | 0.811 | 2.76E-02 |
| 5 先生がいろいろな教え方を知っていて授業に取り入れる | 0.796 | 5.38E-02 |
| 4 落ち着いて授業を受けられる約束などがある | 0.722 | 2.29E-02 |
| 8 教科書の内容をより深く学べるプリントを作ってくれる | 0.535 | 0.229 |
| 1 英語の勉強を通じて、友だちや仲間のよいところを気づかせてくれる | 0.51 | 0.201 |
| 7 自分の考え方を英語で伝えることができる | 0.471 | 0.363 |
| 6 人と人とのつながり(きずな)を描いた内容を英語の教科書(テキスト)で学ぶ | 0.439 | 0.289 |
| 10 必要に応じて先生が英語で話したり日本語で話したりしてくれる | 0.432 | 0.373 |
| F3.2 | | |
| 14 生徒同士でやりとりをしながら進む | -0.11 | 0.907 |
| 12 授業中、生徒が英語を話す時間を作ってくれる | 0.13 | 0.63 |
| 9 ビデオやパソコンなどいろいろな教具を使った | 0.21 | 0.474 |

因子間相関 .78 説明された分散の合計64.3%





本研究の限界と課題

1. 第1、第2因子に相補的關係が生じた原因
2. 質問項目精査後の再分析、再調査
(特に第3因子)
3. 区分相互の關係
4. 現状認識から授業者および学習者の主体的授業づくりへ
5. 探索的研究から、仮説検証へ

ホームページ等の情報

- <http://msuzuki.sakura.ne.jp/> 鈴木政浩のホームページ
- suzuki6111@gmail.com メールアドレス
- メーリングリスト 「より良い英語授業」を考えるML
join-classology.ZBFK@ml.freeml.com

→こちらに空メールを送信していただければ登録手続きが完了します。